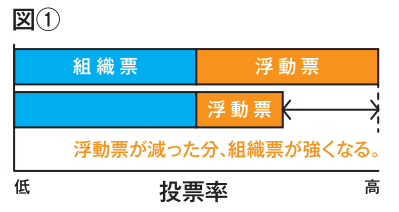




あなただけにそっと教える… なんで「号泣議員」は選挙に当選できたのでしょうか？

問題になった記者会見をご存知の方も多いのではないのでしょうか？
事件直後に僕のところに届いたのは、「西宮の恥じゃないか!!」「議員はもっとちゃんとしろ!!」そんな声が多かったのですが、しばらく経つと、「なんで彼は当選できたの???'という素朴な疑問の方が多くなりました。ここでは、その理由を明らかにしたいと思います。

まずお伝えしたいのは、**投票率が低い現状では「新たな号泣議員」が出現しかねないということです。**
下の図をご覧ください。



投票率が低いままでは、組織票が強くなりま

ず。
実際に、前回の兵庫県議会議員選挙の結果を分析してみましょう。
次の図をご覧ください。立候補者を当選順に並べてみました。

図②

🗳️ 公明党	実は、号泣の彼以外
🗳️ 無所属(世襲)	は、特定の思想を
🗳️ 共産党	持った団体、公務員
🗳️ 自民党(世襲)	や企業の労働組合、
🗳️ 民主党	親の代から議員の
🗳️ 民主党	家系(世襲)、このど
🗳️ 号泣	れかに当てはまっ
🗳️ 自民党	ています。
🗳️ 自民党	県議会議員の選挙
⋮	は、組織票がないと
⋮	勝つ可能性の低い選挙なのです。

そこで彼は、数少ない浮動票を集めるため

に有権者を騙す手法を取りました。
当時、大阪で人気のあった「大阪維新の会」

にあやかって、「西宮維新の会」という団体を作り、みんなを勘違いさせることで、数少ない浮動票を集めることに成功したのです。

投票率がもう少しだけ高く、組織票でない人が彼のブログをちょっと見て判断していれば、彼の当選を防げたのでは…と、僕は考えています。

騙された方々を批判すべきではありませんが、何となくの投票だと、あのような事故が起こってしまいます。

今後の選挙では「新たな号泣議員」の当選を阻止するためにも、必ず投票に行きましょう!!

西宮市生瀬町で生まれてからずっと、このまちに育ててもらったからこそ、今の僕があると思っています。

小さい頃からわんぱくでしたが、地元の方々の温かさに助けられ、気がつけば、だんじりをはじめとする地域活動に夢中になって、20代を駆け抜けました。

「もっと地元の方々の役に立ちたい」「もっと西宮のためになる仕事がしたい」

自然と芽生えた想いに突き動かされ、たくさんの方々の後押しのおかげもあり、僕は西宮市議会議員になりました。
32歳の時でした。

2期8年の議員活動では、西宮市北部の災害対策やコミュニティバスの導入など、地元の方々の期待に応えるための政策を提案する一方、財政改革や教育委員会組織のあり方、福祉施策の改善といった、すべての西宮市民の方々のために捧げるべき政策にも、積極的に取り組んできました。

そんな中、この1年で様々なできごとが起こりました。

西宮市長の交代は、西宮市政のあり方を考え直すきっかけになりました。号泣県議の事件では、西宮選出の県議会議員の質の低さに、強い危機感を覚えました。

台風によって、西宮市北部が大きな被害に遭い、今なお復旧中である現状は、市の枠を越えてでもやるべきこと、やらなければならないこと、僕にしかできないことを実感させるには、十分過ぎる経験になりました。

吉岡政和の新しい挑戦は、まだ始まったばかりです。すべては「明るく豊かな西宮の輝かしい未来」のために!!



西宮市議会議員を 2期8年、 僕には想いと 政策があります!!



そんな中、この1年で様々なできごとが起こりました。

西宮市長の交代は、西宮市政のあり方を考え直すきっかけになりました。号泣県議の事件では、西宮選出の県議会議員の質の低さに、強い危機感を覚えました。

台風によって、西宮市北部が大きな被害に遭い、今なお復旧中である現状は、市の枠を越えてでもやるべきこと、やらなければならないこと、僕にしかできないことを実感させるには、十分過ぎる経験になりました。

吉岡政和の新しい挑戦は、まだ始まったばかりです。すべては「明るく豊かな西宮の輝かしい未来」のために!!

市政から県政へ!!

今、県議会に必要なのは、政策をしっかりと提案できる政治家です。「〇〇をゼロに!」は政策ではありません。

防災

昨年の夏の台風で、西宮市北部は大きな被害を受け、**現在も仮復旧でしのいでいる地域があります。**

北部地域にとって優先順位の高い政策課題ではあるものの、**対応すべき分野が市ではなく県の管轄になること、北部に活動基盤のある県議会議員がいないことが、未だに手つかずの状態になってしまっている大きな理由だ**と思います。

この問題については、西宮市北部を熟知した政治家が、早期に解決策を提案する必要があります。

一方で、西宮市南部にも、まだ表面化していないものの、北部と同様に、喫緊に解決すべき課題があります。

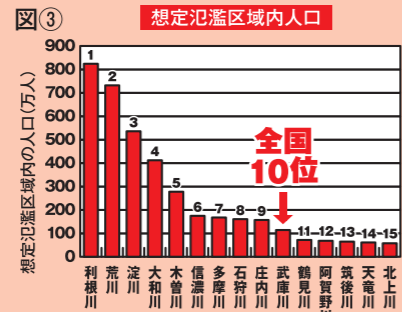
それは、**武庫川の治水対策**です。

武庫川には、これまであまり指摘されてこ

なかつた大きな特徴があります。国土交通省のデータによると、武庫川は2級河川としてはダントツ1位の大きな河川で、1級河川と比較しても、上位10位以内にランクインするほどの規模なのです。

更に言えば、**想定氾濫区域には100万人以上の人口があり、その一般財源額は16兆円以上(図③)**とされています。

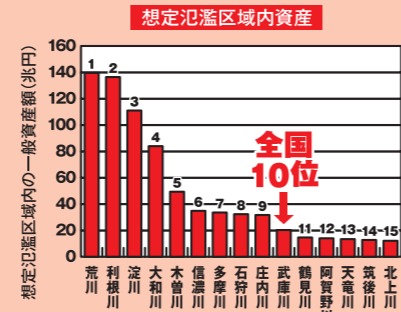
もし大きな氾濫が起きれば想像を絶する被害になることは明らかです。



平成20年度 第8回河川現況調査(※)より
 ※全ての1級水系(109水系)及び主要な2級水系(100水系)を対象に、全国統一のデータ・手法により調査・集計した結果。想定氾濫区域内人口・資産の上位15水系のうち、2級水系は武庫川のみ。

南海トラフ巨大地震による津波対策の必要性は、多くの人々が認識しているところですが、ゲリラ豪雨や台風が頻繁に起こる今、西宮市民にとって、兵庫県民にとって身近にある大きな不安が武庫川であることは、あまり知られていません。

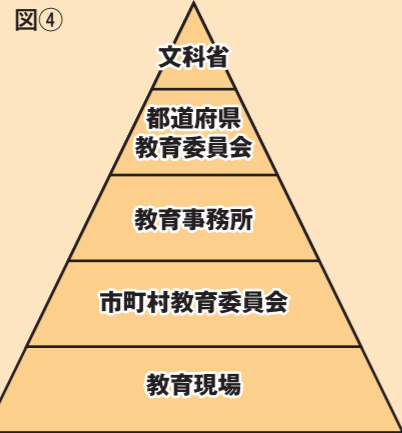
この、**武庫川の治水対策についても、西宮市北部の課題と同様に、合理的な対策の提案を行います。**



これは、教育行政が図④のように、「文部科学省・都道府県教育委員会・教育事務所・市町村教育委員会・教育現場」の5層構造になっており、文部科学省と教育現場が遠過ぎることが原因だと考えられます。

文部科学省に最も近い兵庫県教育委員会が活性化すれば、学校教育の現場に文科省の方針がしっかりと伝わり、教育現場を本来あるべき姿に変革することが可能です。

西宮市のみならず、兵庫県、そして日本の未来を担う子供たちが、グローバルスタンダードと日本人としての誇りを養い、世界で活躍できる人材に成長するために、兵庫県議会でも西宮市議会議員在職時と同様に、**教育委員会活性化につながる施策の提案を積極的に行っていきます。**



図④

教育

市議会議員在職期間、幾度となく本会議において教育委員会に政策提案をしてきました。そのほとんどの場面で、「**教育委員制度(レイマンコントロール)の機能が発揮されていないこと**」「**文部科学省の方針が市の教育現**

場に浸透していないこと」を追及しました。簡単に言うと、**教育委員の選任に偏りがあるため、文科省の方針に則った指導が行われておらず、教育現場があるべき姿からかけ離れた状態にある**ということです。

財政

財政に余裕のある自治体はなかなかありませんが、兵庫県の財政も西宮市と同様に厳しい状態となっています。

そこで西宮市と兵庫県の財政状況を、主な財政指標である経常収支比率で比較してみました。

経常収支比率とは、財政構造の弾力性を判断する指標で、数値が低いほど財政にゆとりがあり、100%を超えると財政が立ち行かないという状態を示します。**一般的に、80%前後だと健全な財政運営だと言われています。**

家計で例えると、給料に占める食費やローン返済など使い道の決まった支出の割合で、比率が低ければ旅行や趣味など自由に使えるお金が多くなり、家計にゆとりがある状態です。比率が100%を超えると給料だけでは決まった支出が賄えず、貯金の切り崩しや借金等に頼らなければ生活できない状態です。

それでは比較してみましょう。西宮市は経常収支比率が94.4%なのに対して、兵庫県は97.3%となっています。西宮市の方が若干、県に比べて財政にゆとりがありますが、どちらもギリギリのお金でやりくりしている状態です。

議員にとって、予算・決算審議は最も重要な仕事のひとつです。

特に西宮市は、神戸市・姫路市について県下第3位の自治体です。西宮市民が支払った県税全てが、市内の県事業において使われることは残念ながらありません。

西宮を代表する県議会議員は、西宮市民の皆さんから徴収された県税が、適切に使用されているかどうかを徹底的に調査し、議論を重ね、みなさんが、より快適に暮らせるように務めなくてはなりません。

財政の分野では特に、西宮市議会議員2期8年で培った知識と経験を発揮し、兵庫県議会の中で即戦力として働く自信があります!

【参考】平成25年にあなたの支払った県税一万円は、図⑤のように使われました。

項目	金額(円)
教育費	2240
商工費	1590
公債費	1450
民生費	1330
総務費	1060
土木費	920
警察費	640
農林水産費	360
衛生費	290
労働費	80
災害復旧費	30
議会費	10

医療

西宮市では、僕が議員になって以来ずっと、財政赤字が続く西宮市立中央病院の存廃が議論されてきました。

現在、市長の示した方針により、アサヒビール工場跡地の阪神国道駅の側、2.6haを55億円で取得し、県立西宮病院との統合病院の候補地とすることが決まっています。県との協議はこれからのようですが、西宮市民のみならず、関心のある問題ではないでしょうか。

一方、西宮市北部に目を向けると、そもそも病院が足りないことや、三次救急に対応できないことが大きな課題となっています。

救急に関する体制は、下記の3つに分類されています。
 「初期(一次)救急=入院・手術を伴わない医療」
 「二次救急=入院や手術を要する医療」
 「三次救急=二次救急まででは対応できない、重い疾患や外傷に対する医療」

現在、兵庫県の定める保健医療計画では、西宮市北部と西宮市南部に加えて、芦屋市や尼崎市を含むエリアを、阪神南圏域と設定し、方針を策定しています(図⑥)が、地理的な条件を考えると、西宮市北部は、宝塚市や神戸市と連携して医療計画を定めた方が、効率的であると考えられます。

西宮市北部の医療課題の解決は、西宮市南部の医療体制の充実にも繋がります。なるべくお金をかけずに仕組みを考え直すことで、新たな解決策を導き出すべきです。



吉岡 政和 よしおか まさかず 昭和49年6月17日生まれ(40歳)
 西宮市立生瀬小学校、西宮市立塩瀬中学校、西宮市立西宮高等学校卒業。近畿大学商経学部経営学科卒業。
 平成11年4月より、中山正暉建設大臣(当時)の下で政治を学ぶ。平成19年4月、西宮市議会議員選挙に初当選。
 平成23年4月、2期目当選(自由民主党公認)。平成26年12月、市議を辞して、県政挑戦を表明。※プロフィールは平成26年12月末のものです。

住所: 西宮市生瀬町1丁目12-9
 Mail: dm-10.masakazu@h6.dion.ne.jp

吉岡 政和 検索